

「地域との連携・協働する中で、 自分のよさや可能性を実感できる生徒の育成」

～顔が見えるつながりを大切に地域学習を通して～

安城市立明祥中学校

1 実践のねらい

- 地域とともに学ぶ取り組みを通して、地域の一員として地域を支えようとする生徒を育成する。
- 学んだことを地域のために、どのように生かすことができるか考え実践できる生徒を育成する。

2 実践の内容

(1) 伝統行事「明中クリーン活動」

昭和63年度、地域の環境美化活動をしたいという生徒会が主催して始まった生徒会活動である。かつて日本で最も水が汚い湖沼の一つと言われた油ヶ淵にたまるごみを減らすことで環境改善につなげたいという趣旨のもと、油ヶ淵のごみ拾いを中心に現在まで毎年行ってきた。

ごみを拾うためには、水辺や堤防斜面に生える葎(あし)を刈り取る必要があり、事前準備として、環境委員会と地域の環境保全会、PTAが協力して下草刈りを実施している。下草刈りを終えると、ペットボトルやビニール袋といった生活ごみだけでなく大きな金属片などの不燃ごみが多数散乱していることが分かった。生徒会では環境委員会が中心となって、各学級での推進活動を実施している。生徒たちに地域の方々と一緒に30年以上続く伝統ある行事であることや、SDGsの視点でも未来につなぐ意義のある活動であることを共有した。当日にはPTA会員や地域の社会奉仕団体の方も参加し、生徒の活動を支援している。生徒たちは、ごみを一生懸命集め、可燃ごみと資源ごみ、不燃ごみに分別した。袋いっぱいにごみを集めた生徒たちはとても満足げで、中には自身の服装が汚れることもいとわずに汚い場所まで入り込んでごみを拾う生徒も見られた。

20年ほどこの活動に参加している地域の環境保全会の方は、以前と比べるとごみはかなり減り水質も改善されているという。本校のクリーン活動が少しずつ成果を上げている証しとも言える。また、保護者の中には、自身も経験した思い出があり、ずっと続いていることに感慨深さと喜びを語る方もいた。生徒たちは、伝統ある活動が実を結んでいることに喜びを感じ、地域の環境を守っていききたいという思いを一層強くしていた。



【地域の環境保全会の方と下草刈】



【水辺のごみを拾う生徒】

20年以上前から参加しています。そのときに比べるとごみも少ないし、本当にきれいになってきました。中学生と一緒に頑張ってきてよかったと思います。

【一緒に参加した環境保全会の方の声】

ふだんはあまり関わることのない地域の方々に関わることができ、いろいろな経験を得たりコミュニケーションの場が広がったりしています。この活動を続けていってほしいと思います。

【活動を終えた生徒の振り返りから】

子供と一緒に油ヶ淵の環境に貢献できてよかったです。この活動は、夫が中学生の頃からやっていて、当時と比べて、とてもきれいな湖畔になっているそうです。明中生が受け継いできた伝統を感じたと話していました。

【一緒に参加したPTA会員の声】

災害が起きたとき、中学生でもできるボランティアのことを学びました。少しでも手伝いをしていきたいです。

【単元終了後の1年生徒の振り返りから】



【地域の防災倉庫の見学】

(2) 地域で学ぶ総合的な学習

第1学年では、防災学習を行っている。学校をはじめ、町内会や安城市社会福祉協議会と連携して地域の防災倉庫の見学や、防災教室を行っている。学んだ生徒の中には、地域の自主防災訓練に参加する生徒もあり、地域の中でより一層学びを深めている。

第3学年では、「地域への恩返し」と題して、今まで地域に支えられて成長してきたことを振り返って、地域へ貢献できることを考えた。各町内会長の助言を受けながら、公園や神社の清掃活動や、こども園での手伝いなど、地域で自分たちが貢献できることを計画して実践した。生徒たちは、地域の方々から学ばせてもらったり、地域へ主体的に貢献できたりしたことで、自己有用感とともに地域の一員である自覚を高めていた。



【3年生：地元の神社掃除の成果】

神社の掃除をしていると、地域の方から「ありがとう」「えらいね」と感謝の言葉を頂いてとてもうれしかったです。お祭りの前には、町内会の大人たちだけでなく子供たちも参加するとよいと思いました。この町内がもっと仲良くなれるように頑張っていきたいと思います。

【神社清掃に取り組んだ3年生の振り返り】

この子たちが小さい頃から遊んでいる神社や公園をきれいにしてくれて、本当にありがたいと思います。これが遊びに来る小さい子にもきっと伝わっていくと思います。

【活動を支援した町内会長の声】

(3) 地域ボランティア活動への参加

本校区の四つの町内会では、地域の結束を深めようと様々な行事が行われている。本校の生徒たちは、各町内会や公民館等からの要請を受けて、自主的にボランティア活動に参加し、地域活動を支援している。令和5年度は、お祭りの運営やお年寄りの見守り巡回、夏休みの小学生支援など、23種類の行事等に、延べ821人の生徒がボランティアとして参加した。特に9月の敬老の日に向けては、全町内会が足並みをそろえて、中学生全員が参加して作成した絵手紙を届けている。生徒たちは、お年寄りへの励ましや感謝の思いを絵手紙で表現した。お年寄りの中には、届けられた絵手紙を大切に飾り、子供たちへ挨拶や声掛けをしようと、日々の励みになっている方もみえる。生徒の中には、小学生の頃に自分も中学生にお世話になったから、中学生になったら自然にやろうという気持ちになっていたと語る生徒もおり、続けてきたボランティア活動が身近な存在になっていることが分かる。また、活動終了時には、町内会長など主催者に生徒への評価をしていただいている。地域の方々からの感謝や成果を価値づける言葉に生徒たちは満足げである。地域の方々との会話が弾む様子から、生徒たちが地域に根を張り、地域の一員としての存在感を高めていることが伝わってくる。



【金魚すくいのボランティア】



【敬老の記念品を届けるボランティア】

自分が小さい頃から、中学生が優しく遊んでくれたので、自分もやりたいと思っていました。自分がお祭りなどで地域を盛り上げるのに役に立ててうれしいです。これからも続けたいと思います。

【地域ボランティアに参加した生徒の振り返り】

敬老の日に向けて届けてもらった絵手紙で元気をもらいました。今も大切に飾っています。中学生がよく挨拶をしてくれるので、自分からも挨拶をするようにしています。

【地域のお年寄りの声】

以前はボランティアの募集を紙面で行っていたが、ICTを活用して、生徒各自のタブレット端末へ募集案内を送って参加の回答を集約することで、効率的に募集ができるようにした。また、地域の方々や今後入学してくる後輩たちにも取組の実態が伝わりやすいように、ボランティア活動の様子が分かるパネルを複数作成したり、3回以上ボランティアに参加した生徒へ地域貢献感謝状を贈るようにしたりした。

3 実践の成果や課題

- ・地域の中で活躍する場をつくることで、地域の方々から褒めていただくなど、認められることにつながり、自己有用感が高まるとともに、地域の一員として貢献していきたいという思いが高まった。
- ・活動を継続することで地域と関わる機会が増え、互いに安心感と信頼感が強まり、尊重し合えるようになった。
- ・学んだことを生かして、更に自分からできることを見つけて主体的に地域に貢献できる力を高めていきたい。